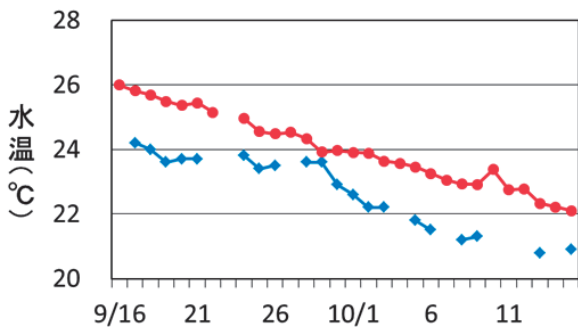




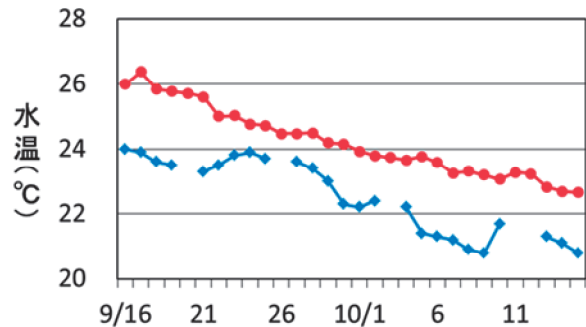
〔海の状況 (9/16~10/15) 〕

- ・ 神子地先の表面水温 … 平年より低く、水温 20.8℃~24.2℃ (平年差 -1.9~0.3℃ ) の範囲で推移していた (図1)。
- ・ 米ノ地先の表面水温 … 平年より低く、水温 20.8℃~24.0℃ (平年差 -2.5~0.9℃ ) の範囲で推移していた (図2)。



◆ 神子(本年) ● 神子平年(過去30年平均)

図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移



◆ 米ノ(本年) ● 米ノ平年(過去15年平均)

図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

- ・ 若狭湾および周辺海域における2015年10月上旬の0m深の水温分布は24~28℃ (昨年同時期に比べ低め)、50m深の水温分布は22~24℃ (昨年同時期に比べ高め) となっていた (図3)。

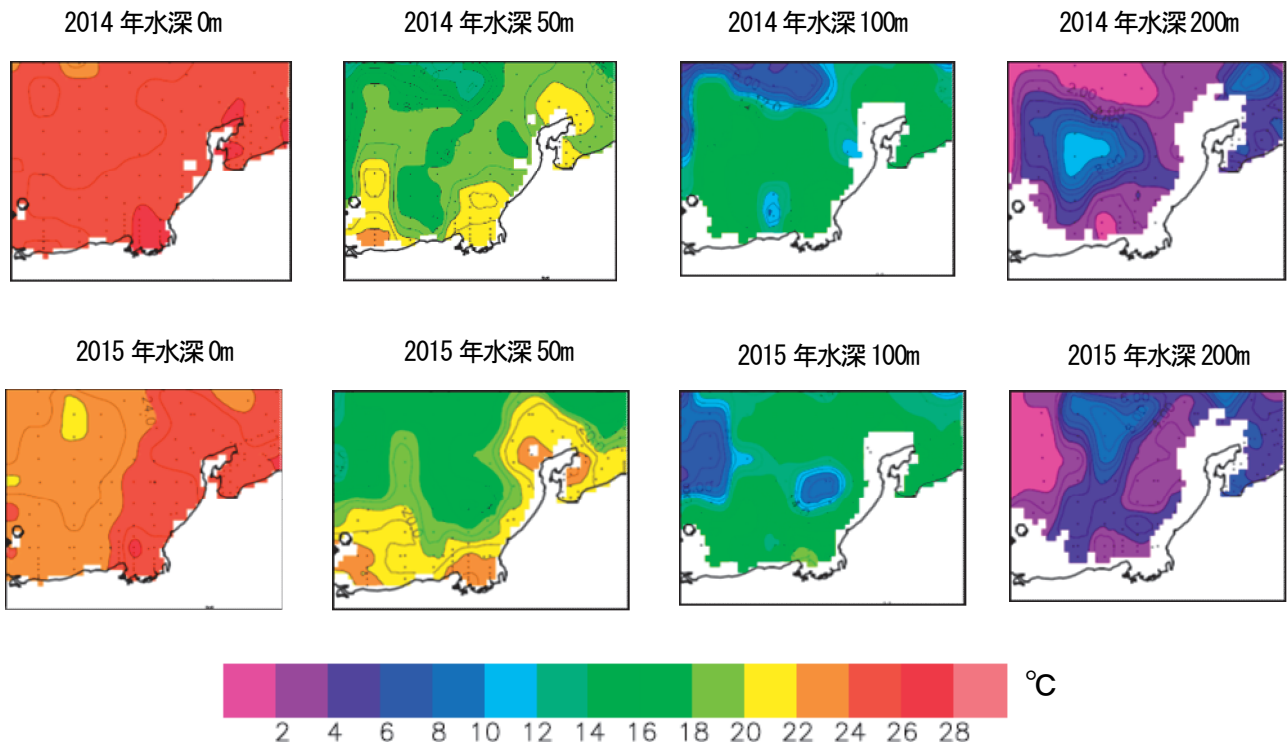


図3. 福井県およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報より)

## 平成 27 年度 第 3 回 日本海海況予報

日本海区水産研究所からみだしの予報が発表されましたので、その概要をご紹介します。

○予報対象期間：平成27年10月中旬～12月

○対馬暖流域の表面水温は、やや低め(1℃程度低め)で経過する。

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部ではやや低め(1℃程度低め)、北部では平年並み(±0.5℃程度)で経過する。

※詳しくは(国研)水産総合研究センターのホームページ(<http://www.fra.affrc.go.jp/>)からも閲覧することができます。

(下中邦俊)

### 〔県内の漁模様：9月〕

2015年9月の県内の総漁獲量は1,483tで、昨年同月を352t上回った。

#### 定置網

漁獲量は1,146tで、昨年同月を414t上回った。サワラ、アジ類、サバ類、フグ類等の漁獲量が前年同月を上回り、ブリ類(ハマチ)、カタクチイワシ等は下回った。

#### 底びき網

漁獲量は298tで、昨年同月を26t下回った。アカエビ、ハタハタの漁獲量が前年同月を上回り、アカガレイ、その他カレイは下回った。

#### 釣り・その他

漁獲量は39tで、昨年同月を35t下回った。アマダイ、ブリ、スズキ等の漁獲量が前年同月を上回り、タコ類、メバル類、マダイ、キダイ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2015年	2014年	平年	前年差	平年差	魚種名	2015年	2014年	平年	前年差	平年差
マイワシ	841	42	58	799	783	メバル類	1,407	1,098	1,250	309	157
カタクチイワシ	378	2,635	6,112	-2,257	-5,734	ホタルイカ	0	0	0	0	0
アジ類	106,141	33,249	55,980	72,892	50,161	タコ類	6,835	4,767	8,679	2,069	-1,844
サバ類	67,285	6,439	14,414	60,846	52,872	アカエビ	77,609	57,666	59,053	19,944	18,557
マグロ類	866	1,753	899	-887	-33	その他エビ	7,153	7,026	5,138	127	2,015
ブリ類	101,458	119,781	135,284	-18,323	-33,825	その他	91,077	79,290	91,120	11,787	-43
(ブリ)	191	31	71	160	119	合 計	298,467	324,436	314,846	-25,969	-16,379
(ワラサ)	563	342	10,077	221	-9,514						
(ハマチ)	7,866	24,595	12,221	-16,729	-4,355						
(ツバス)	69,333	64,722	94,671	4,610	-25,338						
サワラ	729,961	382,464	303,500	347,496	426,460						
マダイ	2,468	1,513	2,157	956	312						
スズキ	1,375	2,234	1,872	-859	-496						
ヒラメ	342	202	277	140	65						
フグ類	7,033	2,255	7,984	4,778	-951						
スルメイカ	0	15	26	-15	-26						
ヤリイカ	0	0	1	0	-1						
コウイカ	12	57	104	-45	-92						
その他	205,340	268,324	274,339	-62,985	-69,000						
合 計	1,145,549	731,274	685,966	414,275	459,583						
底びき網 (kg)						釣りと、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
魚種名	2015年	2014年	平年	前年差	平年差	魚種名	2015年	2014年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,263	1,049	1,768	214	-505	ブリ	372	0	73	372	299
キダイ	5,493	11,401	12,082	-5,908	-6,588	マダイ	1,065	2,788	2,778	-1,724	-1,713
スズキ	0	25	7	-25	-7	キダイ	5,955	6,683	6,832	-728	-878
ヒラメ	306	205	180	101	126	アマダイ	4,611	4,123	4,626	488	-15
アカガレイ	60,651	116,553	85,574	-55,902	-24,923	スズキ	284	273	282	12	3
その他カレイ	36,853	38,891	43,669	-2,037	-6,816	ヒラメ	224	309	508	-85	-284
アナゴ	5,063	5,270	3,698	-207	1,365	その他カレイ	62	386	489	-324	-427
ハタハタ	4,756	1,196	2,630	3,560	2,127	アナゴ	114	388	324	-274	-210
						サヨリ	0	0	1	0	-1
全漁法 (kg)						メバル類					
魚種名	2015年	2014年	平年	前年差	平年差	魚種名	2015年	2014年	平年	前年差	平年差
合 計	1,483,432	1,130,555	1,081,428	352,877	402,004	スルメイカ	0	17,655	5,994	-17,655	-5,994
						ヤリイカ	0	0	3	0	-3
						コウイカ	1	2	31	-1	-30
						タコ類	2,972	6,735	4,707	-3,762	-1,734
						その他	22,121	31,342	51,020	-9,221	-28,899
						合 計	39,417	74,845	80,617	-35,429	-41,200

※1 平年の値は2005-2014年の10年平均です。 ※2 ( )は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

〔漁獲状況〕…石川県：9月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：9月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月中旬～10月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。

石川県…定置網…サワラ・サゴシ10.1t、マアジ3.4t、シイラ2.3t、ブリ(フクラギ銘柄)2.2t、カマス1.3t、マサバ0.8t  
 京都府…定置網…マアジ(大・中・小・豆・ジンタ銘柄)6.8t、サワラ類6.8t、イワシ類3.1t、サバ類2.2t、ブリ(ツバス)1.6t  
 兵庫県…定置網…アジ199kg、マサバ112kg、ブリ(ハマチ銘柄)86kg、ブリ(ツバス銘柄)28kg、カワハギ12kg、イシダイ10kg  
 鳥取県…まき網…マイワシ21.9t、カタクチイワシ17.2t、ウルメイワシ6.9t、マアジ4.0t、マサバ3.8t、ブリ類3.5t

(下中邦俊)

## 「生け簀での網管理作業軽減について」

現在、水産試験場の生け簀でマハタの養殖試験を行っています。生け簀飼育での作業のひとつに「網替え」があります。「網替え」はホヤやイガイ、海藻等がついて重くなったり、水通しが悪くなったりした網を新しい網に交換する作業です。網替え作業は重労働なので、回数が減れば作業の軽減につながります。

### (カワハギの活用)

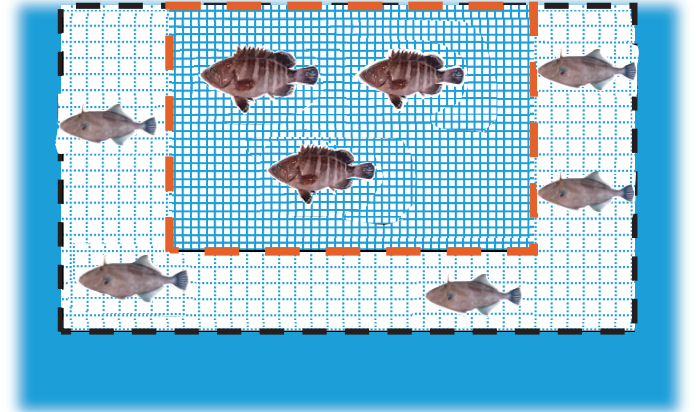
右の写真の網は、両方とも設置してから半年経っています。左側にはカワハギが、右側にはマハタが入っています。左側の網にはほとんど付着物がついていませんが、右側の網は全面が付着物に覆われています。

カワハギは、これまでも網についた寄生虫の卵の駆除等に活用しましたが、今回は、付着物を食べてもらうために右図のように網を設置しました。

まず、生け簀に網を二重に設置し、内側の網にマハタを入れ、内側と外側の網の間にカワハギを入れました。マハタには給餌しますが、カワハギは給餌せずに網の付着物を食べてもらいます。網を設置している間、カワハギは常に網をつついており、腹部はいつも膨れた状態で何かを食べているようでした。



左：カワハギのみ 右：マハタのみ



網の設置状況略図

### (飼育結果)

網を設置してから約4か月後に3か所の生け簀の網替えを行い、付着物の状況を確認しました。付着物のほとんどがホヤでしたが、その量は網によって大きく異なっていました。

マハタの食べ残しがほとんどなかった生け簀の網のホヤの付着数は非常に少ないのに対し、餌を与えすぎた生け簀の網にはホヤが一面に付着していました。この生け簀のカワハギは大きく成長しており、付着物はあまり食べずにマハタの餌のおこぼれをせっせと食べていたようです。この方法の場合、内側の網で養殖する魚に丁寧に給餌することが重要であると考えられます。

もちろん、付着物を食べていただけのカワハギも大きくなっているのですが、網の掃除だけではなく、カワハギの生産も併せた一石二鳥の養殖になる方法を検討していきたいです。

開発研究グループ 藤野 数恵

## 「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。水産試験場で実施したトロール調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

### 漁獲動向（図1）

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は増加傾向にあり、近年は500t前後で推移しています。H26年度は、資源保護の取組みにより水ガニ漁期が短縮された影響で、水揚げが前年度より60トンほど減少しました。

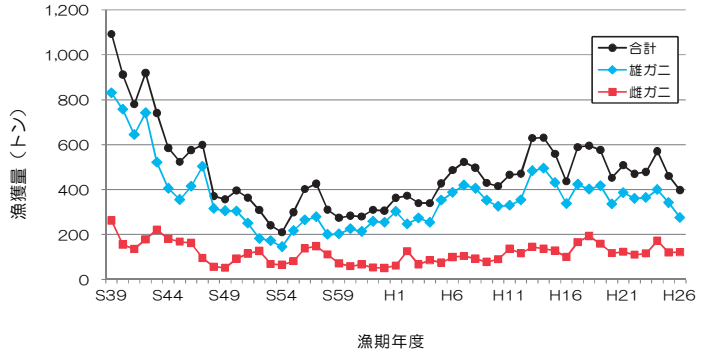


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

### 資源状況（図2）

雄について見ると、今年の漁獲の主体となる12歳は資源水準が比較的高く、あわせて、今年から水ガニとして漁獲の対象となる11歳も例年並みの資源水準にあることから、良好な資源状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄ガニの資源量を推定したところ、昨年をやや上回る1,967トンと算出されました。

また、雌についても、漁獲の対象となるクロコ（経産ガニ）の資源水準は高く、雄と同様に良好な資源状況にあると考えられます。資源量を推定したところ、昨年を上回る651トンと算出されました。

### 漁模様

昨年・一昨年から引き続き水ガニの漁期が約1か月短縮されるため、雄の漁獲量は“昨年並み～やや上回る”程度と見込まれます。

一方、雌の漁獲量は、良好な資源状況を反映して、“昨年をやや上回る”ことが見込まれます。

（河野展久）

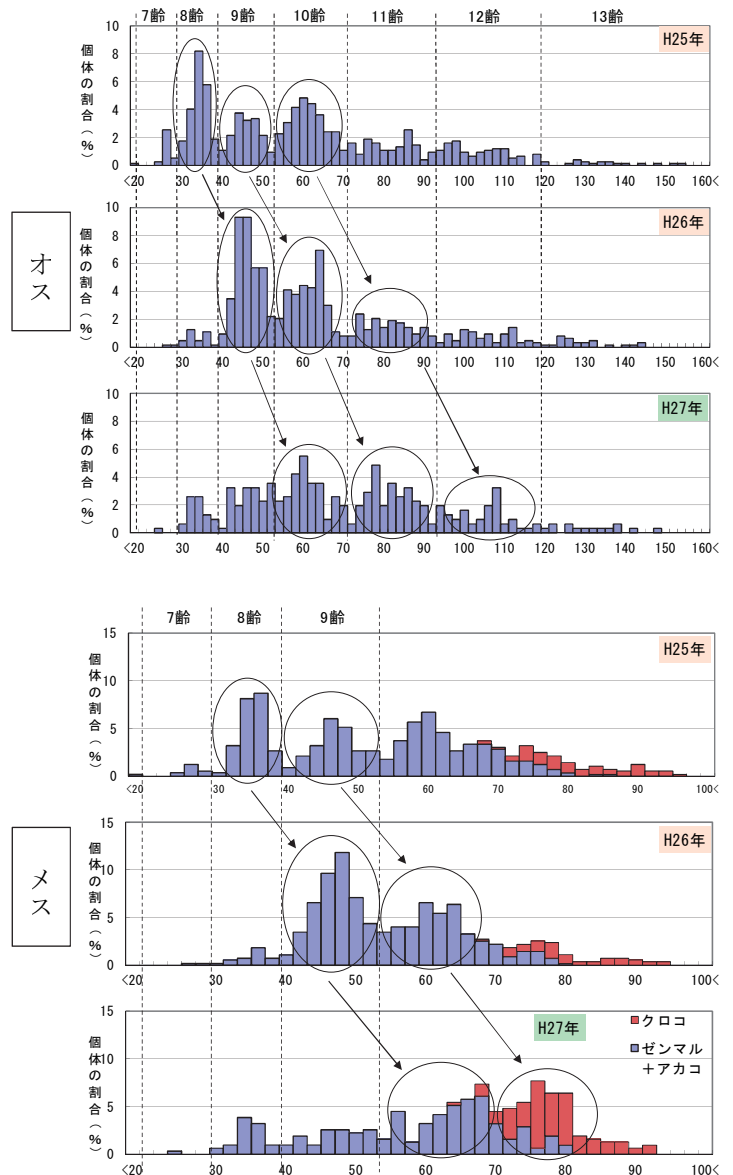


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成（上：オス、下：メス）